

コース名		科目名		対象学年			
個体の反応 病因と病態		薬物治療		2			
開講学期		科目責任者		副責任者			
3 学期		岡本 安雄		坪井 一人			
目的							
正しい薬物療法を行うために、どのような機序で薬物が作用するのか、そのことを踏まえてどのような効果と副作用が発生するのかを理解することを目的とする。							
授業到達目標							
本科目は、コンピテンス II（コミュニケーション能力）、コンピテンス III（医学と関連領域の知識）へとつながる科目である。							
1. 各種疾病に対して薬理学的根拠に基づいて薬物の適切な選択ができる。							
2. 薬物の生体内動態（吸収・体内分布・代謝・排泄）を理解し、薬物の薬理作用と副作用の関係が説明できる。							
3. 各種薬物が、生体内に存在する各種受容体にどのような作用し、生体の各種調節機構にどのような影響を与えるかを説明できる。							
4. 生体の調節機構を刺激あるいは抑制する新しい薬物の開発（創薬）の方向性を理解できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	1/ 6	月	4	講義	岡本安	薬理	抗精神病薬（統合失調症治療薬）
2	1/ 6	月	5	講義	岡本安	薬理	抗うつ薬・気分安定薬
3	1/ 6	月	6	講義	北風	薬理	抗不安薬・睡眠薬
4	1/ 7	火	1	講義	北風	薬理	抗てんかん薬
5	1/ 7	火	2	講義	北風	薬理	パーキンソン病治療薬
6	1/ 7	火	3	講義	岡本安	薬理	抗認知症薬、局所麻酔薬
7	1/ 8	水	4	講義	岡本安	薬理	全身麻酔薬
8	1/ 8	水	5	講義	竹之内康	薬理	高血圧治療薬
9	1/ 8	水	6	講義	竹之内康	薬理	狭心症治療薬
10	1/ 9	木	1	講義	竹之内康	薬理	利尿薬
11	1/ 9	木	2	講義	岡本安	薬理	抗不整脈薬
12	1/ 9	木	3	講義	岡本安	薬理	心不全治療薬
13	1/10	金	4	講義	岡本安	薬理	止血薬、抗血栓薬
14	1/10	金	5	講義	竹之内康	薬理	糖尿病治療薬
15	1/10	金	6	講義	坪井一	薬理	脂質異常症治療薬
16~18	1/14	火	1~3	演習	岡本安・坪井一 竹之内康・北風	薬理	P-Drug 演習：症例問題を用いて適正医薬品の選択法を体験学習する。演習内容をグループ討論し、演習成果をパワーポイントで作成する。（アクティブラーニング、TBL）
19~21	1/15	水	4~6	演習	岡本安・坪井一 竹之内康・久米 北風	薬理 循内	P-Drug 演習の成果をパワーポイントにより発表する。（アクティブラーニング、TBL）
22	1/16	木	1	講義	坪井一	薬理	気管支拡張薬・気管支喘息治療薬
23	1/16	木	2	講義	坪井一	薬理	鎮咳薬・去痰薬・呼吸機能改善薬
24	1/16	木	3	講義	坪井一	薬理	非ステロイド性抗炎症薬
25・26	1/18	土	2・3	中間試験	岡本安	薬理	中間試験

27	1/20	月	1	講義	坪井一	薬理	ステロイド薬、甲状腺疾患治療薬
28	1/20	月	2	講義	坪井一	薬理	女性ホルモン製剤・子宮用剤
29	1/20	月	3	講義	岡本安	薬理	泌尿器・生殖器用剤
30	1/21	火	1	講義	岡本安	薬理	造血薬
31	1/21	火	2	講義	竹之内康	薬理	消化性潰瘍治療薬・制吐薬
32	1/21	火	3	講義	竹之内康	薬理	消化管運動機能改善薬・腸疾患治療薬
33	1/22	水	4	講義	坪井一	薬理	骨粗鬆症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬
34	1/22	水	5	講義	坪井一	薬理	免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬
35	1/22	水	6	講義	坪井一	薬理	抗アレルギー薬
36~38	1/23	木	1~3	演習	岡本安・坪井一 竹之内康・北風	薬理	ロールプレイ演習（宮崎大学医学部・柳田俊彦先生）（アクティブラーニング、TBL）
39	1/24	金	1	講義	貝沼	非常勤／学 園外	漢方の歴史と基本理論
40	1/24	金	2	講義	貝沼	非常勤／学 園外	漢方医学的診断方法
41	1/24	金	3	講義	貝沼	非常勤／学 園外	漢方医学の臨床

評価方法

[期末試験]45%

[中間試験]45%

[プレゼンテーション]10%（演習の出席は必須。）

[評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、プレゼンテーション評価、実習態度評価

[備考]中間試験と期末試験は必ず受験すること。中間試験を受験しなかった場合、その回の成績は0点となる。期末試験を受験しなかった場合、補充試験の受験資格を失う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて

試験：中間試験と期末試験の模範解答はSindbadシステムにアップロードする。

演習：P-Drug 演習：演習成果をパワーポイントで作成・発表する。各発表毎に全体で質疑応答を行い、各症例の内容などについて担当教員がコメントする。ロールプレイ演習：司会役が進行を務め、医師役・患者役がロールプレイを行う。ロールプレイ終了時に学生が主体となって討論を行い、コメンテーターがコメント・ミニレクチャーを行う。最後に各症例の内容などについて担当教員がコメントする。

教科書

特に教科書は指定しないので、自分に合ったものを選んでください（薬の基本とはたらきがわかる薬理学：羊土社、イラストレイテッド薬理学：丸善出版、患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門：九州大学出版会、NEW薬理学：南江堂、標準薬理学：医学書院、薬がみえる vol. 1~4：メディックメディア、ベッドサイドの薬理学：丸善出版、はじめの一步のイラスト薬理学：羊土社、ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学：丸善出版、エース薬理学：南山堂、新薬理学：日本医事新報社、ラング・デル薬理学：丸善出版、基本がわかる漢方医学講義：羊土社など）。配布資料あり（Sindbadシステムからダウンロード）。

参考書

（特になし）

準備学習（予習・復習等）

予習：講義の前に、該当する範囲の教科書を読んでおく（30分程）。

復習：過去の試験問題により各講義内容の理解度を適宜チェックし、不明な点については教科書を用いて自主的に追加学習する（30分程）。

講義についての注意事項

講義に出席し、その内容を理解する。講義の終了後、不明な点は教員に対して積極的に質問する。

昨年度からの変更点・改善項目

3コマ減。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

本科目の直前に学修する「生体と薬物」履修後に学修する。3年次以降に学修する臨床医学の基本になる。

ナンバリング

BAPC222

